



大樹のこころ

今日という日はね

今日と明日は学校開放日。お忙しい中、多くの保護者の皆様にご来校いただき、子供たちの学びの様子を参観していただきました。この学校開放日に合わせて、もう一つ行事が行われました。学校保健委員会です。講師はケアリングクラウン（病棟道化師）のポッチ☆アダムス先生です。

ポッチ先生は南山高校・中学校の現役保健体育科の教師。教師としての仕事の傍ら、「ポッチ☆アダムス」として病院を訪問したり、各学校へ出向いて「命」に関する講演活動を行って来られます。2006年より本格的に活動を開始して、現在800回以上も講演会や訪問を行っているとのこと。岡崎市には縁があって、最近も市内の中学校で講演会をしたばかりと言っていました。

今日の学校保健委員会では、5・6年生の児童と参加を希望された30名ほどの保護者を前にして行われました。会の冒頭で、保健委員会の子供たちが、事前にとった命に関するアンケート結果を発表します。その後、ポッチ先生を紹介したニュース映像が流れる中、本物のポッチ先生が登場しました。思わず歓声が上がります。それもそのはず、ポッチ先生は「クラウン」（道化師）ですのでピエロのいでたちです。子供の心をつかむために、まずは手品を披露します。柔らかいロープが、ポッチ先生の手にかかると堅い棒に早変わりです。その様子に拍手が起こります。子供たちの心を和らげてから、講演が始まりました。

ポッチ先生の講演は「心と体はつながっている」ことからスタートしました。ポッチ先生は、病院訪問などを「やりたくない」と考えたことがないと言います。むしろ「楽しい」「やりたい」と感じているとのこと。「人の役に立った」という思いは「やりがい」になり、そして「嬉しい・楽しい」という気持ちにつながっていく。そして「自分にもいいところがある」との認識が生まれ「自己肯定感」が生まれていく。このスパイルから、さらに「役に立ちたい」という気持ちが芽生えていくとのことでした。すごく説得力のあるお話でした。講演は「性教育」や「LGBT」について広がりを見せながら、「命はバトン」ということへ収束していきました。会の最後はポッチ先生得意の手品です。助手として指名されたのは可知先生。可知先生とポッチ先生がテーブルに手をかけると、あら不思議。テーブルが空中に浮かび上がりました。どんな仕掛けか分かりません。助手を務めていた可知先生も「種はわかりませんでした」と言っていました（笑）。

最後にポッチ先生は「今日という日はね、あの人があんなに生きたいと願った未来」と言われました。生きてくても生きることができなかつた人たちにとって、今日という日は憧れの日。だからとっても愛おしく、大切にしていかななくてはならない。そう感じさせてくれた講演会でした。

